

千葉 ソーラーシェアリング視察 報告書

行先 千葉市緑区 の農地実験場

参加者 田中、本道、小池、長澤、片桐、堀内 計6名

現地9:30集合なので 前日より千葉市に入り宿泊して行きました。

当日 うす曇りでしたが 現地でソーラーシェアリング協会の神田様が 対応していただきました。

- ・ 目的は 営農をしながら農家収入のUPを期待して太陽光発電を設置
- ・ 現地は農家の方の土地を借り 実験をしていました。
発電容量は 25 K w≒90 w×272枚 費用は約700~800万円



- ・ 太陽光発電パネルは特注の小さいものを使用し耕作に必要な光を取れるように工夫している。遮光率25% 角度30度 高さ3m 簡易な骨組みで撤去可能
農水省の 推奨光飽和点は 40~110 L x 作物によって違う！
千葉では 第1号 で 農業委員会の横のつながりもできて 現在17設備進行中
- ・ ニンジン は 光がない所は 成長が遅い・・・光飽和点だけでは判断できないことが解った。
里いも、アシタバは あまり 変化はなかった。
- ・ 農地の一時転用なので 銀行から借入れが出来ないため自己資金でやる。
資金面で 少し苦しい！
- ・ ソーラーシェアリング協会では データと意見書の手伝いをして 農業委員会へ
農地転用申請のお手伝いをしている。
- ・ 安定収入が入ることが 農業が安定すると・・・農業を安定産業に
- ・ 就農にもつながり 不耕作放棄地を無くすことができる。

問題点

- ・ 余剰電力買い取り価格が下がると 収入が減るので 今後売電だけでは伸びないので蓄電の技術の進展が必要
- ・ 農転許可に 地域差がある。行政側のソーラーシェア初めでの所は 時間がかかる。
- ・ 農家の後継ぎがいないとだめ・・・継続しないと初期投資を回収できない！

これからは 太陽光発電の電気を 地産地消の方向にしていくしかない！

- ・ 農家の発電を 自分の地域で使う。
- ・ // 市で買い 公共施設で使う。
- ・ 休耕地を 事業者、行政（市、県）を巻き込んで少しでもエネルギーコストを下げ収益にする。
- ・ 一度出来た 耕作放棄地は 土作りに3年はかかる！

- ・ もしやるなら くるみ、リンゴ、ブラックベリー、杏、アシタバ
観光農園+地産地消のレストラン

大変貴重な情報をソーラーシェアリング協会の神田様に 熱く話をしていただき
当太陽エネルギー促進チームのメンバーも 役にたちました。

<総括>

やはり 農地にソーラーシェアリングをするのは かなりハードルが高いと感じました。また 20年継続を考えると 私たちはもう居なくなっているかもと思うと あまり勧められないかな？・・・
農業政策を根本から変えないと 明日はない気がしました。
太陽光発電の買い取り価格の下げは 振興に大きなブレーキになると思います。

報告書作成

太陽エネルギー利用促進チーム

田中 昭